

○ 本校の概要

(出身小学校) ○志茂田小 ○新宿小 ○西六郷小 ○道塚小 ○仲六郷小 他  
(学級数・生徒数) 通常級 15学級(各学年5学級)、特別支援学級 3学級 全校582名(令和5年9月1日現在)  
(生徒の様子)

○校内に活気があり、何事にも一生懸命に取り組む姿勢がある。素直で優しい気持ちの生徒が多い。○日々の授業に対する態度は真面目である。○学校行事や部活動などの特別活動に一生懸命に取り組む生徒が多い。  
(地域の様子)

○大規模な繁華街に隣接しているが、本校の地域は静かで教育環境の整った落ち着いた住宅地である。○地域住民は地元愛が深く、地域力がとても強い。○保護者や地域は、学校に理解を示し、大変協力的で様々な面で支援してくれる。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	学校関係者記入欄			
							評価	人数	コメント	
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にふさわしく、子どもたちの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。		(年度末に保護者及び生徒対象のアンケート調査を実施) 4:コミュニケーション能力、情報活用能力に関する肯定的な回答が80%以上 3:コミュニケーション能力、情報活用能力に関する肯定的な回答が70%以上 2:コミュニケーション能力、情報活用能力に関する肯定的な回答が60%以上 1:コミュニケーション能力、情報活用能力に関する肯定的な回答が60%未満	4:80%以上 3:70%以上	A			
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのつくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。					B		
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。					C		
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。					D		
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。					1:60%未満		
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学習意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。		(年度末に生徒及び保護者対象の学習に関するアンケート調査を実施) 4:学習に対する意欲・関心に関する質問項目において、肯定的な回答が80%以上 3:学習に対する意欲・関心に関する質問項目において、肯定的な回答が70%以上 2:学習に対する意欲・関心に関する質問項目において、肯定的な回答が60%以上 1:学習に対する意欲・関心に関する質問項目において、肯定的な回答が60%未満	4:80%以上 3:70%以上	A			
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。					B		
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。					2:60%以上		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。					C		
		保護者と連携した検定や小テスト、単元テストなどを実施する等して、個別最適な目標をもたせる学習の機会を増やし、学習への意欲を高める。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。					1:60%未満		
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。		(年度末に生徒及び保護者対象の生活に関するアンケート調査を実施) 4:自己肯定感に関する質問項目において、肯定的な回答が80%以上 3:自己肯定感に関する質問項目において、肯定的な回答が70%以上 2:自己肯定感に関する質問項目において、肯定的な回答が60%以上 1:自己肯定感に関する質問項目において、肯定的な回答が60%未満	4:80%以上 3:70%以上	A			
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。					B		
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。					C		
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。					D		
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておこなった会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。					1:60%未満		
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		(年度末に生徒及び保護者対象の生活に関するアンケート調査を実施) 4:健康・体力の保持・増進についての質問項目において、肯定的な回答が80%以上 3:健康・体力の保持・増進に関する項目において、肯定的な回答が70%以上 2:健康・体力の保持・増進に関する項目において、肯定的な回答が60%以上 1:健康・体力の保持・増進に関する項目において、肯定的な回答が60%未満	4:80%以上 3:70%以上	A			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。					B		
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。					C		
		東京2020大会を契機に、キンボールやフライングディスク等のニュースポーツを積極的に取り入れるなどして、男女共修の意義やスポーツの楽しさを体感させる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。					D		
		校内委員会、生活指導部会を毎週開催する他、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家効果的に活用するなどして、多様性と調和をスローガンに生徒対応を強化する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。							
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくり出します。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		(年度末に生徒及び保護者対象の学習に関するアンケート調査を実施) 4:授業内容の理解度に関する質問項目において、肯定的な回答が80%以上 3:授業内容の理解度に関する質問項目において、肯定的な回答が70%以上 2:授業内容の理解度に関する質問項目において、肯定的な回答が60%以上 1:授業内容の理解度に関する質問項目において、肯定的な回答が60%未満	4:80%以上 3:70%以上	A			
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。					B		
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。					C		
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。					D		
		生徒による授業評価を含む教員の指導や学校生活等に係る評価の機会を設け、教職員の指導改善に積極的に取り入れる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。							
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。		(年度末に生徒及び保護者対象のアンケート調査を実施) 4:活動状況公開・家庭学習支援・地域との連携等に関する質問項目において、肯定的な回答が80%以上 3:学校に対する満足度(活動状況公開・家庭学習支援・地域との連携等)に関する質問項目において、肯定的な回答が70%以上 2:学校に対する満足度(活動状況公開・家庭学習支援・地域との連携等)に関する質問項目において、肯定的な回答が60%以上 1:学校に対する満足度(活動状況公開・家庭学習支援・地域との連携等)に関する質問項目において、肯定的な回答が60%未満	4:80%以上 3:70%以上	A			
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。					B		
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:全学級で行った。 3:80%以上の学級で行った。 2:60%以上の学級で行った。 1:取り組んだ学級は60%未満であった。					C		
		全校で組織的な家庭学習への取組を行い、個に応じた家庭環境も視野に入れ、生徒に家庭学習の習慣を身に付けさせる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。					D		
		学年便りを毎週発行したり、ホームページを第三者目線で改善するなどして、学校の様子を保護者に伝えるとともに、保護者からの意見等を把握し、学校運営に反映させる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。							

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。  
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。  
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。